

令和7年度 第1回大田市公共料金に関する審議会 議事要旨

日 時 令和7年4月21日(月)10:00 開会

場 所 大田市役所2階第1会議室

出席者 18名

【審議会委員】9名

公立大学法人島根県立大学

村山 誠

大田商工会議所

鎌田 晴美

銀の道商工会

大門 まゆ子

社会福祉法人大田市社会福祉協議会

大谷 積

大田市青年協議会

佐々木 優作

大田市自治会連合会

安藤 彰浩

帝人コードレ株式会社

島林 一雄

仁摩女

落合 美樹

大田友の会

南良原 悦子

(欠席者)

温泉津女子会

渡利 章香

【大田市】9名

市長

楫野 弘和

《事務局》

環境生活部長

藤原 和弘

環境生活部環境政策課長

山崎 省吾

環境生活部環境政策課環境政策係長

中原 崇之

上下水道部長

田中 明

上下水道部管理課長

家迫 英樹

上下水道部水道課長

榎本 淳次

上下水道部水道課課長補佐

石川 勝晃

上下水道部管理課管理係長

石原 亜紀子

(欠席者)

上下水道部水道課課長補佐

岩倉 哲

【報道機関】 1社

1. 開 会(10:00)

事務局より過半数以上の委員の出席により会議が成立していることを報告

2. 市長あいさつ

3. 会長の選出及び会長代理の指定

委員の互選により、村山委員を会長に選出

会長の指名により、会長代理に安藤委員を指定

4. 会長あいさつ

5. 諮 問

楫野市長より審議会(会長)へ諮問

6. 議 題

議事進行は大田市公共料金に関する審議会条例第5条の規定により、会長が議長として行う

1) 会議の公開・非公開の決定について

→ 公開で承認

2) 大田市給水条例に定める水道料金の改定について

① 水道事業の概要について

② 水道料金について審議会開催に至った経過

③ 県内8市水道料金の状況

①、②、③について事務局より一括して説明。

意見、質疑応答については以下のとおり。

委 員 出雲市はどのようにして安価な料金で提供できるのか。
事務局 出雲市は浅井戸から取水し、急速ろ過という浄水方法で水道水を作っている。原水が井戸水なので、急速ろ過でも、使う薬品類が少なくすむと考えられる。また、給水人口が多く供給量が多くなるため、それにより原価は下がる。

大田市については、三瓶ダムを水源としているため、ダムの水質が井戸水と比べると悪い。そのため、使用する薬品が多くなる。また、カビ臭対策のため、活性炭を使っており、その費用も発生する。

委 員 8市の経営状況は、このグラフで理解した。三瓶ダム等、老朽化により修繕費が他市に比べて多いと思われるが、これはこのままの状況なのか。今後の経営状況を考えた時にどのように推移するのか。

事務局 古い水道管が多く、石綿管等も残っている状態である。更新については、財源を確保するという意味で、下水道事業に合わせて実施している。しかし日々至る所で漏水が起きている状況であり、これが今すぐに減る状況ではない。

委 員 今後費用が必要になってくる、補てんしなければならないものが出てくる、そのところを水道料金でという話がベースだとは思いますが、逆にいろいろな費用がある中で、何か経費を削減する策はないか。例えば、他市に比べて多い維持管理のための委託料や薬剤の代替えなど、新しい技術のようなものはないか。

事務局 委託料の関係については、現在、三瓶浄水場は民間委託だが、従来は、市の職員が常駐し直営で管理をしていたという経緯があり、その経費が委託料に振り替わっている。近年の物価高騰等により、薬品等も相当上がってきて、それに代わるものは、今すぐに見つけられる状況ではない。他の方法で安くできないかという検討はしているがなかなか難しい。

事務局 三瓶ダムは、水質が悪く、活性炭を使いながら水を浄化している。ダム側の水

質改善が必要であり、県の河川課に水質改善として、いろいろな取り組みをしてもらっている。

令和7年度から水質改善できる機械を試験的に導入した。ダムの水質を改善することで、活性炭の量を減らす方法を試行している。薬品の量を抑え、上水の原価を下げしていく取り組みについては、引き続き検討しながらやっていきたいと考えている。

委 員 三瓶浄水場をやめてその分江の川水道用水を増やした場合、料金的にどうなのか。

事務局 江津の浄水場は、規模が大きく送水量にかなり余裕がある。しかし、江津の浄水場から久手の鳥越配水池までパイプラインが30kmあるが、管路の直径(550mm～400mm)により現在の2倍の水量を送水することが技術的に困難である。

また、新たなパイプラインを整備するのに数十億円かかるので現実的ではない。給水人口が2分の1になれば、江の川用水だけでまかなえるが、数十年後になると思われる。

委 員 江の川からの供給の余裕は、あとどのくらいあるか。

事務局 計画水量でいくと9,500m³/日で、今実際に使用しているのが、4,300m³/日使っている。今の稼働率は47%程度。

委 員 単純計算で言えば、その分だけ三瓶から切り替えができるのか。

事務局 単純計算では余裕はあるが、実際に供給するためには、現在の管で可能なのかということも含めて検討しなければならない。

委 員 江の川と三瓶ダムの料金の違いはどうか。

事務局 次回お示しする。

委 員 経費を下げるものを示さないと、足らないので料金引き上げだけというのは、住民の理解が得られないと思う。少しずつでも、いろいろなところを削減して、残りがこれですという形で説明した方が良いと思う。

事務局 三瓶浄水場の経費と、江の川水道の受水費は比較可能なので、次回資料をお示しする。他にも希望があれば、次回資料を用意させていただく。

経費が削減できないかということについては、実は、運営している側からすると、ギリギリの状態運営しており、修繕、更新を先送りしながら、毎年経費を削減しながら予算を組んでいるのが現在の状況であるとういことは理解いただきたい。

委 員 三瓶ダムは、後何年くらい使えるのか。ずっと使えるのかどうか。

事務局 ダムは、60年の減価償却をしているので、最低でもそのくらいはもつし、おそらく、実際の寿命の方が長い。今すぐダムが使えなくなることはない。

躯体については問題ないが、コンピュータやいろいろなモーター、電気設備等制御しているものがあり、何年かに1回は更新しなければならない。既に2回くらいは更新しているが、その場合、大田市水道事業で10.5%の負担をしなければならない。

委 員 委託料が他市に比べて多いのには、何か理由があるのか。

事務局 委託料の大半を占めるのが、三瓶浄水場の運転管理、それから各水道の配水池の点検や草刈り等、全て委託している。急速ろ過で、24時間稼働している工場のような浄水場は、他市にはない。ちなみに、直営にした場合と比較すると、数千万円は経費的には下がると思われる。平成28年より民間委託となった。

委 員 経営状況の中の、ピンク色で示してある人件費は、何の人件費になるのか。
事務局 市職員の人件費になる。

委 員 今一番気にしていることは、人口が減っていくことである。今の料金で、今のままだと大変になることは分かるが、人口がこれからもまだまだ減ってくる状況があるので、人口がこれくらいになるとどういう状況になるといった説明をしないと、説得力がないのではないかと。市の方で、人口推計をされていると思うので、その辺りの資料も出してほしい。

事務局 今は、人口減少を見込んで料金推計をしている。資料については検討したい。

委 員 人口減少は、全庁的な課題だと思うので、それぞれのセクションの中で共有する中で方向性を定めることが必要ではないかと思う。

委 員 料金をいくらにするのかという、前提条件のところであると思う。納得できる資料があるかないかだと思う。次回は可能な限りで資料をお願いしたい。

3)その他

事務局 第2回目の審議会は、三瓶浄水場の施設見学を行った後に審議をお願いする予定としたい。→ 承認。

7. 閉 会 (11:08)